

都道府県・ 指定都市番号	1	都道府県・ 指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	2 (5)
				領域名	校種間連携
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (5) 校種間の連携による教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名 (園児・児童数)	てしおちようりつてしおちゆうがっこう 天塩町立天塩中学校 (75人) ほっかいどうてしおこうとうがっこう 北海道天塩高等学校 (145人)			学校・地域の特色及び実態等 ・天塩町では以前から「天塩町教育研究協議会」が組織されており、小・中学校間で研究協議等が行われてきた。 ・平成 26 年度からは本校も協議会に参加し、各教科指導に係る研究協議に加わっている。 ・これまで、小・中学校、高等学校で年 1 回の研究授業や研究協議を行い、教科単位で指導方法の工夫・改善や授業力向上に向けて取り組んでいる。	
所在地 (電話番号)	〒098-3393 北海道天塩郡天塩町字川口1464 番地の 4 北海道天塩高等学校 (電話番号 01632-2-1108)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	www.teshio.hokkaido-c.ed.jp/				
研究のキーワード	「課題の明確化」 「教科ミーティング」 「研究授業」 「乗り入れ授業 (出前授業)」 「12 カ年指導計画」				
研究結果のポイント	○ 他校種との連携が活発になり、教科ミーティング・研究授業 (授業参観)・乗り入れ授業 (出前授業) を数多く実施し、校種の垣根を越えた連携が行われている。 ○ 小学校・中学校・高校と 12 カ年を見据えた「12 カ年指導計画」の作成・整備を進めている。 ○ 校種を越えて各教科で、指導方法や評価方法の研究・研鑽を進めている。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

義務教育段階における学習状況を踏まえた、高等学校における学習指導や学習評価の改善・充実、及び系統性のある指導計画の作成に関する研究

(2) 研究主題設定の理由

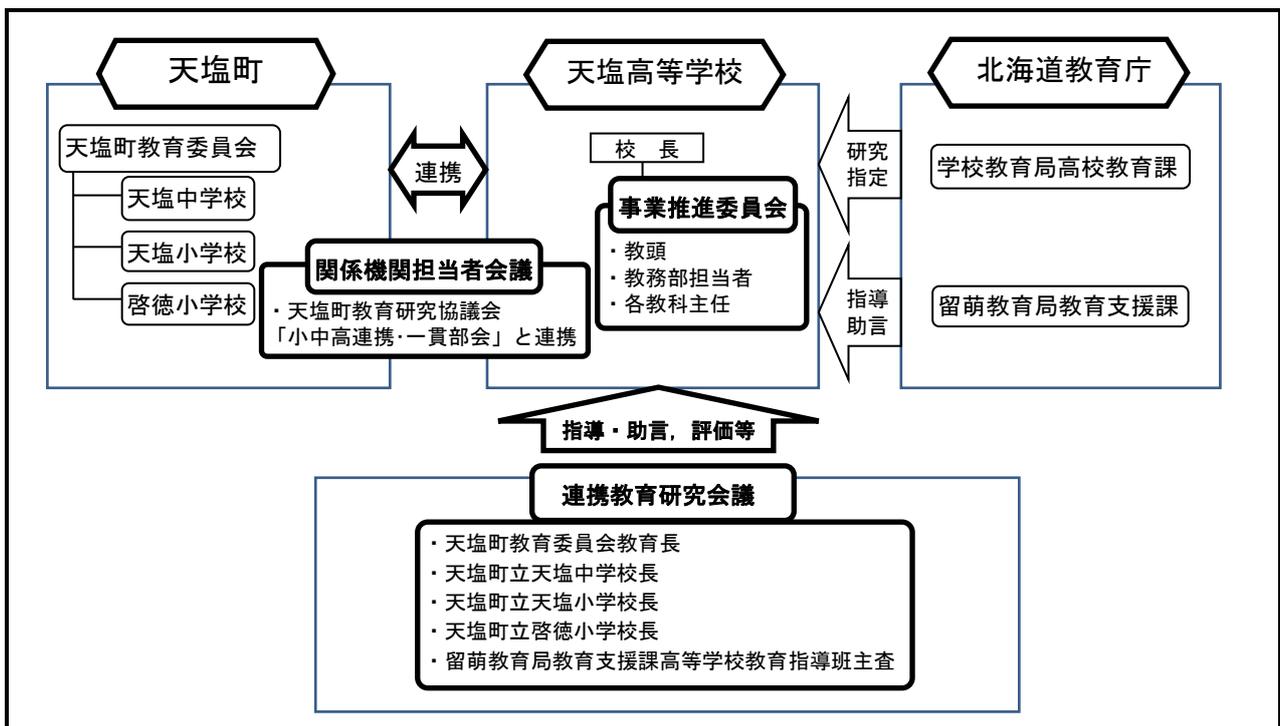
天塩高校 (以下、本校) が所在する天塩町の中学校の卒業生の約 7 割が本校に進学しており、全校生徒の約 4 割に上ることから、本校生徒の確かな学力の向上、主体的に学ぶ態度の育成及び学習習慣の定着を図るためには、学校間で連絡会議等を持ち、各学校の教育計画について情報交換したり、中学校、高等学校において発達段階に応じた系統性のある指導計画を作成したりすることは効果的であると考える。

天塩町では以前から「天塩町教育研究協議会」が組織されており、小・中学校間で研究協議等が行われてきた。平成 26 年度からは本校も協議会に参加し、各教科指導に係る研究協議

に加わっている。現在は、小・中学校，高等学校で年1回の研究授業や研究協議を行い，教科単位で指導方法の工夫・改善や授業力向上に向けて取り組んでいるところである。しかし，各校種ごと1回のみの実施であり，研究協議も当日の研究授業を対象としているなど，各校種の指導や評価の方法に関する情報共有や，系統性のある指導の在り方等についての話合いは十分ではなかった。

そこで，これまでの成果に加え，本校が主体となって中学校における学習状況（指導方法，評価方法等）の実態を研究して，生徒の学習上の課題等を中学校と共有し，中高の系統性を踏まえた指導及び評価の方法や指導計画の改善・充実を図ることが，校種間の円滑な接続を図る上で効果的であると考え，研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・天塩町教育研究協議会総会・第1回研修参加（4月12日） ・第1回関係機関担当者会議打合せ（6月3日） ・第1回事業推進委員会（6月7日） ・天塩町教育研究協議会第2回研修参加（6月17日） ・事前アンケートの実施（6月17日） ・天塩町教育研究協議会第1回小中高連携・一貫教育推進部会全体会参加（7月21日） ・第2回関係機関担当者会議打合せ（10月5日） ・公開研究会（10月13日） ・第2回事業推進委員会（11月7日） ・第3回関係機関担当者会議打合せ（11月14日） ・天塩中学校校内研究授業発表会参加（11月21日） ・先進校視察（2月）
--------	--

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ア 教科指導等の工夫・改善に向けた取組の実施
 - ・研究授業及び研究協議を通じた、主体的・協働的な学びや、課題発見・解決のある学びの過程に視点を当てた教科指導等の工夫・改善
- イ 教科ミーティングの実施
 - ・「天塩町教育研究協議会」における教科研修への参加
 - ・教科ごとの研究主題の設定
 - ・義務教育段階での生徒の学習（指導方法、評価方法等）に係る研究
- ウ 先進校の視察
 - ・中高連携を推進している先進校の視察
 - ・地域連携研修における先進校の視察報告
- エ 連携教育研究会議の実施
 - ・本事業の実施計画の検討及び実施
 - ・実施した内容の改善・充実に向けた検証、評価
- オ 小・中学校、高等学校での学習の系統性を重視した教育課程の編成・実施
 - ・系統性のある指導計画の作成及び工夫・改善

(2) 具体的な研究活動

- ア 教科指導等の工夫・改善に向けた取組の実施について
 - ・既存の天塩町教育研究協議会と適切に連携しながら、小学校・中学校・高校で研究授業を行い、研究協議で授業を振り返った。互いに計15回の研究授業を実施し、授業の良い点や悪い点を見極め、授業力向上を目指した。また、研究授業で参観・協議を行い、小学校・中学校・高校の各カテゴリーの児童・生徒の状況・雰囲気を感じ取り、今後の授業への参考材料にすることができた。
 - ・乗り入れ授業（出前授業）を実施した。実施回数は、高校から中学校へは計3回実施し、今後4回実施する予定である。高校の教員が中学校で授業を行うことで、より専門的な授業を生徒が体験でき、高校での学びを感じることができた。また、教員の指導方法の工夫・改善につなげることもできた。
- イ 教科ミーティングの実施について
 - ・各教科による教科ミーティングを実施し、指導方法や評価方法について研鑽を積んだ。教科ミーティングは全体で29回実施され、昨年度までは各教科での協議が、およそ年1回程度だったものが、微増ではあるが平均3回と連携が強化されつつある。
 - ・また、天塩町教育研究協議会における教科研修へ参加することで、小学校・中学校・高校までの教員が連携を取り、教科ミーティングを合わせて開催し、その回数も増え、より連携を強化することができた。具体的には、シラバスや指導計画、評価に関わる作成物を持参し互いに研修を積んだ。各教科によって課題は異なることから、各教科における「課題の明確化」を目指し、一年次の連携を継続している。
- ウ 先進校の視察について
 - 現在計画中で、今後実施予定となっている。
- エ 連携教育研究会議の実施について
 - 天塩町教育研究協議会総会第1回研修(4月12日)、天塩町教育研究協議会第2回研修(6

月 17 日)、天塩町教育研究協議会第 1 回小中高連携・一貫教育推進部会(7 月 21 日)と合わせて実施した。

オ 小・中学校, 高等学校での学習の系統性を重視した教育課程の編成・実施

研究授業や乗り入れ授業, 教科ミーティングを実施し, 指導方法や評価方法について小学校・中学校・高校の教員が互いに研鑽を積むことで, 指導計画への工夫・改善の話題も自ずと出てきた。このことを踏まえ, 各カテゴリーの教員が 12 カ年を見据えた指導が行えるように, 小学校から高校までの 12 カ年指導計画作成に向け取り組んでいる。

3 研究の結果と今後の取組

(1) 研究の結果

- 既存の天塩町教育研究協議会の協力もあって, これまで近いようで遠かった他校種との連携を活発に行うことができた。教科ミーティングを始め, 研究授業(授業参観)・乗り入れ授業を実施することにより, 校種の垣根を越えた連携が行われている。
- 系統性を重視した指導計画の編成については最も進展した取組となった。12 カ年指導計画を各教科で作成している。教科によって全領域や一部領域と差は出るが, 学習指導要領の内容に準じながら, 天塩町の児童生徒の実態にできるだけマッチするように現在実施中の取組を踏まえ, 各接続のポイントで達成したい項目を設け, 各カテゴリーの教員が前カテゴリーからの引き取りや次カテゴリーへの引き継ぎを考えながら指導に当たれるように, 作成・整備を進めている。
- 指導方法や評価方法に対する取組は, 各教科の教科ミーティングや研究授業の際の協議で互いに研鑽を積んでいる。全体として 12 カ年を見据えた指導方法や評価となるように進めていく。

(2) 今後の取組

今後, 重点的に取り組んでいかなければならないと考えているものが三つある。①各教科における課題の明確化, ②12 カ年指導計画の作成, ③12 カ年を見据えた指導方法・評価方法の工夫・改善である。

特に 12 カ年の指導計画は, 中・高の教員のみならず, 小学校の教員にとっても有益であると考え。小学校では基本的に担任が全教科を指導しており, 教科によっては担任の知識量の差や得意・不得意がみられる可能性がある。そのため, 各教科において中・高で求められている力や小学校で最低限身に付けさせておきたいことを明確に提示しておくことで, 小学校の教員の負担を軽減することも期待される。

また, 10 月 13 日に実施した公開研究会での調査官からのご指摘を踏まえ, また, これら三つの取組を推し進めるための一つの方法として, 生徒向けアンケートの実施を考えている。意図としては, 一年次のテーマとなっている課題の明確化を推し進めるとともに, 今後作成していく 12 カ年指導計画と指導方法・評価方法の工夫・改善に生かすためである。

現時点での事業の取組は本校独自の内容であり, 今後児童生徒たちの 12 カ年を見据えて事業に対する視野を広げるという意味でも, 先進校の視察が重要と考えており, 今後実施予定の視察から学んだものを参考として, さらに事業を発展・継続させていく必要がある。